

2023年度 キャリアパス多様化支援セミナーⅢ 研究力アピール強化ワークショップ（第1回）
アンケート集計結果

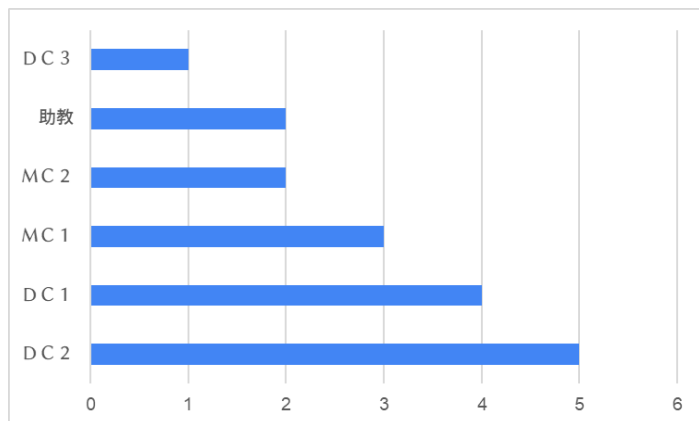
日 時：2023年12月15日（金） 15:00～17:00

場 所：オンライン（Zoom）

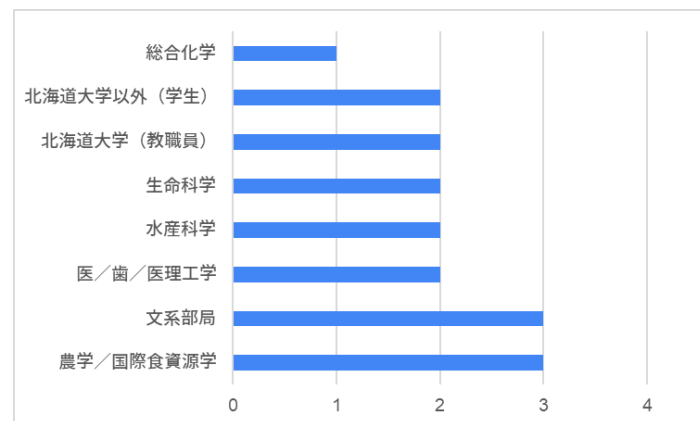
参加人数：19名（MC1 4名、MC2 2名、DC1 5名、DC2 5名、DC3 1名、助教 2名）

回 答 数：17名

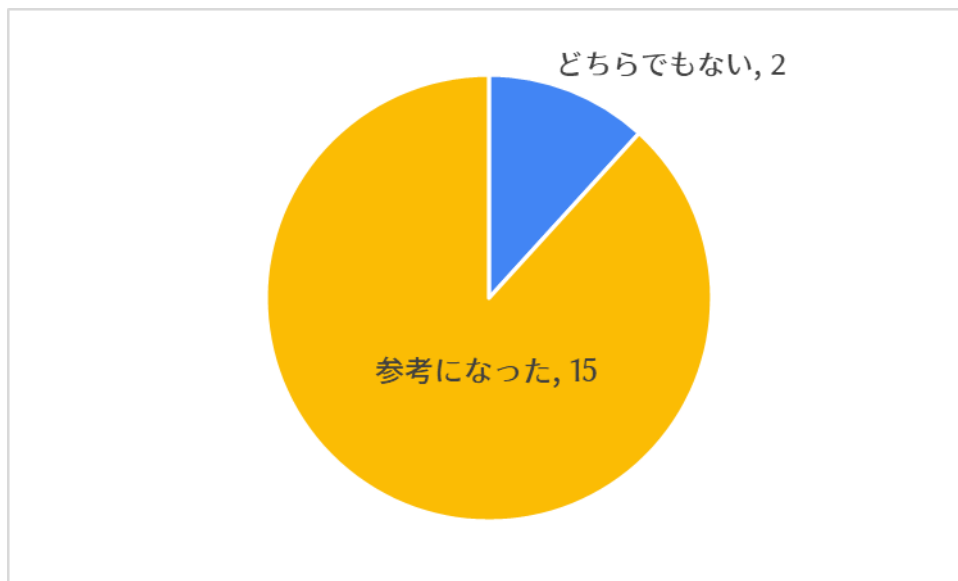
学年別



所属別



1.本セミナーは参考になりましたか？



（1で「参考になった」と回答した方）どの点が参考になりましたか？（具体的に）

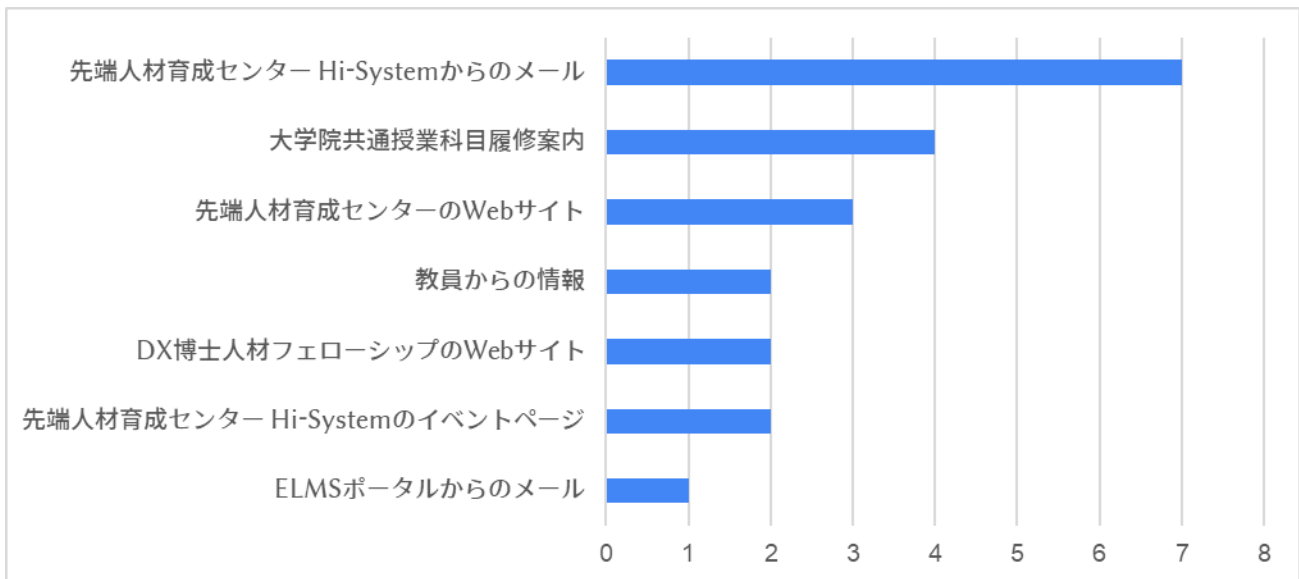
他の人のスライドから参考になる部分が見つかった。
学会等での研究発表と採用試験での研究発表の差異を具体的に知ることができた点
他の学生の研究力アピールの仕方、考え方を知るよい機会になった
研究力の評価軸に関して、さまざまな意見を聞くことで考察が深めることができたこと。研究を伝える方法については試行錯誤してきたが、研究力をもつ人材としてのアピールに関しては考えたことがなかったため。
面接での研究発表では自分のアピールが重要であること

就職活動に関するセミナーでの研究紹介ということはわかっていたにも関わらず、実際に用意してみると「自分」ではなく「研究内容」にフォーカスしたプレゼン資料を作ってしまったことに気が付くことができました。
評価軸を設定するグループワークから、自身が作成したスライドにはない要素が見出された。
面接の際の、採用担当の方の視点を考えるいい機会になりました。
企業の採用面接での視点 研究紹介にいらすとやの画像を使ってよいか
「研究力」を伝えるプレゼンの方法について学べたこと
あらかじめ発表のシミュレーションをして良い訓練ができたから
企業の採用における研究発表の概念が変わった。
評価軸を設定するグループワークの1回目の後の時間が非常に参考になった。他グループでの意見から、他の学生がどのようなことが大事だと考えているかを知ることができた。また、企業に入ってから将来どれだけキャリアパスが多様かということ踏まえた上で、再度採用時の評価軸を考え直すという流れがあったことで、採用面接への対策の意義をよく理解できたと感じた。
他の学生の発表を聞き、良い点と悪い点を客観的評価が出来、同時に自身の発表で気づけなかった良い点と悪い点をほかの学生に教えて貰えることができたから。
グループ構成メンバーの所属・学年が多様だったため「自己紹介・研究紹介をする」となったとき、どのような視点・内容になるのか各自で異なっていたこと

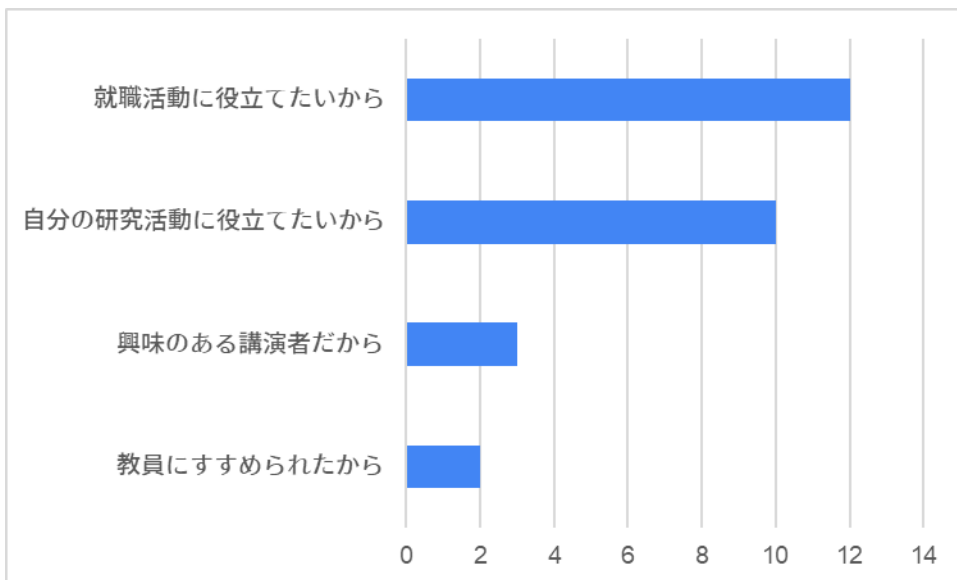
2.本セミナーをとおして学んだことを教えてください。

博士人材は人柄も必要だということが学べた。また、グループワークでスライドにどのように人柄の部分を盛り込むのか議論できた。
「何のためにその研究をしているのか」を「背景」の部分で述べるとよい、とのこと。
研究を伝えることと、研究力を伝えることは異なること。面接では、研究そのものの説明ではなく、人柄を含めて、自分自身の能力を伝える必要があるということ学びました。
自分をアピールできる発表方法
学会での発表と就職試験における研究紹介の目的の違いや、評価軸を自ら想定することで面接と研究紹介が就職活動においてそれぞれ課される意味について考えることができました。
まだまだ学生目線のスライドしか作れていないと痛感した。
面接官側の視点を考えることの大切さ、及びその視点を発表にどうやって発表に生かすか。
自分の研究紹介で、課題の説明と、どのように解決した説明が不足していた。
採用選考においては研究内容の詳細を理解してもらうのではなく、研究に対してどういう価値観で、経緯で臨み、人とどんなふうに関わりながら進めたか、ということ伝えるべきであるということ。
博士新卒採用はのびしろ・人柄とスキル・経験をどちらも求められるため、様々な能力をアピールできるようプレゼンを磨くことや、また足りないところを今から身につけられるよう研究を含め色々な経験を積むことが必要であると再確認できた。
プレゼンの仕方の多様性
評価（採用）する側が求める要素を意識し、想定される評価軸を考えてアピールポイントを考える必要があること。自分が考えているアピールポイントと、採用側の認識が合致していない可能性を踏まえ、実際に何を求められているのか深く考えておく必要があること。

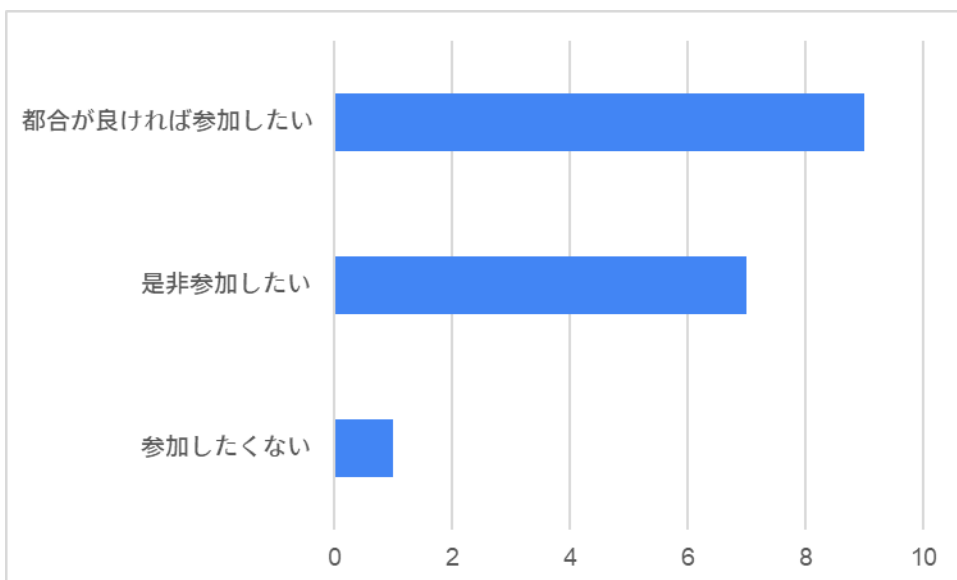
3.本セミナー開催について、どのように知りましたか？（複数回答可）



4.本セミナーの参加理由（複数回答可）



5.今後もセミナーを開催する予定ですが、また参加したいと思いますか？



6.今後、どのようなセミナーを開催して欲しいですか？

わからない
研究しながら精神状態を保持することについてのセミナー
対面とオンラインのハイブリッドの科目が増えると参加しやすいです。
論理的にわかりやすく話すためのコツ。個人的に苦手であるため、「えー」とか「あー」が多かったり、だらだらと話してしまうクセがあるので、スマートに端的に述べることができるようになりたい。
特になし
研究生活で生産性を向上させる（数多く論文投稿するなど）ために、ルーティーンややるべきおすすりな行動など、先輩や研究者の方々の体験談を聞いてみたいです。
面接
発表時間の異なるプレゼン資料（事前課題ではない）を用いて、今回のような研究紹介における評価軸をもとにプレゼン資料をブラッシュアップするワークがあれば参加したいです。
「"分野の異なる"企業に自身を売り込むとしたら、あなたは どうしますか？」みたいなセミナーは興味があります
就活に役立つセミナー
企業での研究から事業化までのプロセスについて
修士、博士など学年を問わず、横のつながりを作る交流会のようなイベントがあったら、参加してみたい。
研究の初歩的なこと、ソフトなことが分かるようなセミナー
社会に出てから市場価値を高めるために役立つようなセミナー
思考を管理するためのメモ術など
本セミナーと類似したセミナー。
自分の研究を広くアピールする方法や具体的な手段（SNS や個人サイトを利用して何が出来るか、注意点や相談先など）を扱ったセミナーがあってもいいのではないかと思います。

7.本セミナーをより良くするためのポイントを教えてください

対面の方がグループワークはしやすい
グループワークセッションで気軽に意見を交換できること
グループワークの人数が多いと、十分にコメントする時間がないので、プレゼン発表は 3,4 人だと有難いです。
特になし。規模感や時間配分もちょうどよかったと思います。
グループワークの全体へのフィードバックは指名で円滑な進行にしてほしい。
可能であれば、現地開催の方がコミュニケーションが取りやすいように感じました。
スライドを頂きたいです。
グループワークを行う際には〇分間（□時まで）といった時刻指定があると各自でタイムキーピングがしやすくなると思います。
開催時刻や所要時間もとても良かったです。
先生からのフィードバックが欲しかったです。
ブレイクアウトルームでのどのような議論をしてほしいかについては、ワークシート中に書いてあると議論が進みやすかったと思う
対面開催が良かったです。
なし

特にございません。
解決策が思い浮かばず恐縮ですが、グループワークで発言する動機が全員にあるようにガイダンスがあると、全く発言しない人がいなくなるかもしれないと思いました。
参加者数の問題から、難しいかもしれませんが、深澤先生、もしくはほかの教員からのコメントも個別でほしかったです。
採用時の自己・研究紹介という前提に加えて、対象についてもう少し具体的に指定があると資料を作成しやすかったと思います（相手をどのような存在・集団と想定すべきか、どの程度共有できている情報があるのか＝履歴書以外に何か書類を送っているのかなど）

8.本セミナーについてのご感想、または主催の先端人材育成センターS-cubic へのご意見・ご要望など（自由にご記入ください）

得られるものがあったセミナーになりました。
お忙しい中開催していただきありがとうございました。"
リマインドありがとうございました
非常に実りのある時間を過ごすことができました。